

Hospital Cancer Registration in 2022 and 2023

新潟県立がんセンター新潟病院

情報調査部 病歴室

はじめに

これまで院内がん登録の報告は県立がんセンター新潟病院医誌発行年より約3年遅れていたが、今回2022年と2023年のデータを報告し、今後は医誌発行の前年度のデータを報告する。

がん登録とは

「がん登録」とは、がん患者の診断や治療、経過などに関する情報を収集し、それを保管、整理、解析する仕組みである。がん登録には全国の病院および指定された診療所で診断したがんを集計する「全国がん登録」と、がん診療連携拠点病院や専門病院で診断したがんを集計する「院内がん登録」がある。

全国がん登録は2016年1月1日から施行された「がん登録等の推進に関する法律」に基づいて集計が開始され、罹患数の把握を主たる集計目的としている。居住地域にかかわらず全国どこの医療機関で診断を受けても、がんと診断された人のデータは各都道府県に設置された「がん登録室」を通じて集められ、最終的に国立がん研究センターにある国のデータベースで一元管理されている。

院内がん登録は、国が指定するがん診療連携拠点病院等を中心に、全国約850病院で行われており、がんの部位や進行の程度、診断・治療の方法など全国共通のルールに従って登録する。登録されたデータは国立がん研究センターに提出し、データの分析が行われる。

当院の院内がん登録の経緯

当院における院内がん登録の歴史は古く、1961年の開設以来60年以上に渡って新規がん患者のデータを登録、蓄積してきた。当院がん登録の最大の特徴は、その予後調査の精度の高さにある。これまで文書発送による予後調査と市区町村への照会による自発的調査を登録後20年に渡って毎年行っており、ほぼ100%近く転帰情報を把握してきた(図1)。しかし、文書発送にかかる作業量の増加や個人情報保護法の

問題もあり、現在は調査期間を10年に短縮し、文書発送ではなく市区町村への照会による調査を行っている。

当院の院内がん登録は開始当初より原則として入院患者を対象にしたデータベースとして構築してきたため、患者の退院日を基準として年度毎の症例を集計していた。しかし、2007年から始まったがん診療連携拠点病院における院内がん登録の全国集計は、入院のみならず外来患者も含めて、診断日を基準とした年度別登録となっていた。そのため、当院においては“従来の院内がん登録”と“拠点病院提出用の院内がん登録”の二重構造の状態が続いていた。また、外来のみで診断・治療されたがん患者の登録漏れが多かったことも、その問題が解消できない一因となっていた。しかし、2014年の電子カルテシステムの全面更新に伴ってケースファインディングシステムを導入し、これまで医師からの自発的な登録のみに頼っていた外来がん患者についても漏れなく登録することが可能となった。そこで、懸案事項であった院内がん登録の二重構造を解消すべく、2014年登録分以降は、拠点病院全国集計に提出している診断日ベースのデータを当院の正式な“院内がん登録”として取り扱っている。

2014-2023年院内がん登録

2014年から2023年の院内がん登録の部位別内訳を表1に示す。登録件数は毎年3,000件を超えており上昇傾向であったが、2020年は新型コロナウイルス感染症流行のため低下している。2021年には軽度上昇しているが、その後は横ばいで推移している。

2022年登録症例を部位別にみると、肺(463例)、乳房(449例)、大腸(結腸+直腸)(372例)、胃(354例)、前立腺(350例)が上位5がん種となっている。2023年登録症例では乳房(457例)、肺(439例)、大腸(結腸+直腸)(386例)、胃(350例)、前立腺(304例)が上位5がん種となっており、この1年で肺と乳房が入れ替わっている。2020年の全国集計では1位大腸、2位肺、3位胃、4位乳房、5位前立

腺であり順位に違いはあるが部位は一致している。区分別にみると、自施設診断自施設初回治療が57% (2022年), 55% (2023年), 他施設診断自施設初回治療が29% (2022年), 32% (2023年)と、約9割の患者が当院で治療導入されている(図2)。来院経路別では他院よりの紹介が84% (2022年), 83% (2023年)と、前方連携の重要性がうかがえる(図3)。発見経緯別ではがん検診・健診・人間ドックが

21% (2022年), 22% (2023年), 他疾患の経過観察中が30% (2022年), 32% (2023年)であった(図4)。46% (2022年), 44% (2023年)を占めているその他には自覚症状などによる診療所・病院受診が含まれている。

この2年間で大きな変動はなく、例年と比べても傾向は一定している。(塩路和彦)

表1

部位	2014年 提出件数	2015年 提出件数	2016年 提出件数	2017年 提出件数	2018年 提出件数	2019年 提出件数	2020年 提出件数	2021年 提出件数	2022年 提出件数	2023年 提出件数
口腔・咽頭	54	49	67	75	77	60	71	95	96	104
食道	120	120	128	149	160	172	144	153	154	159
胃	357	342	372	423	402	415	354	384	354	350
結腸	189	172	178	218	202	206	208	210	227	228
直腸	138	135	116	123	151	116	122	140	145	158
大腸					(353)	(322)	(330)	(350)	(372)	(386)
肝臓	30	34	40	33	32	26	25	34	21	35
胆嚢・胆管	56	38	43	33	32	28	32	39	37	38
膵臓	96	97	89	106	105	118	105	126	108	135
喉頭	34	20	39	40	35	30	17	32	31	27
肺	468	477	530	503	472	487	506	537	463	439
骨・軟骨	16	18	13	33	23	39	34	31	29	24
皮膚(悪性黒色腫を含む)	219	218	252	258	234	282	220	241	269	289
乳房	308	331	342	371	385	471	395	423	449	457
子宮頸部	130	115	126	89	130	154	121	122	84	106
子宮体部	69	69	53	71	83	58	90	80	96	101
子宮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卵巣	47	42	50	44	43	49	55	60	51	68
前立腺	262	310	287	302	319	337	320	306	350	304
膀胱	141	152	145	188	182	197	184	196	227	160
腎・他の尿路	116	95	99	89	102	101	116	101	105	102
脳・中枢神経	7	8	10	11	8	8	7	5	8	2
甲状腺	85	75	102	90	78	73	71	65	77	77
悪性リンパ腫	105	74	106	81	82	82	72	59	69	62
多発性骨髄腫	14	9	22	21	17	11	11	12	9	10
白血病	21	28	19	21	16	20	20	16	15	15
他の造血管腫瘍	12	20	11	17	13	21	7	13	13	10
その他	81	72	73	105	96	107	80	95	99	96
合計	3,175	3,120	3,312	3,494	3,479	3,668	3,387	3,575	3,586	3,556

対象者：2012年～2021年までの10年間に登録され、2022年1月1日以降の受診歴のない患者

院内がん登録件数

	実数	延べ数
がん登録患者総数（61年間）	93,217	104,772
登録後10年以上経過	62,640	70,677
登録後10年未満	30,577	34,095

住民票照会結果

	件数
判明	4,545
該当なし	37
転出	57
回答不可	8

※回答不可理由

- ・有料
- ・同意書がない

予後判明率：30,292/30,392 = 99.66%

図1 2023年度の予後調査結果（住民票照会）

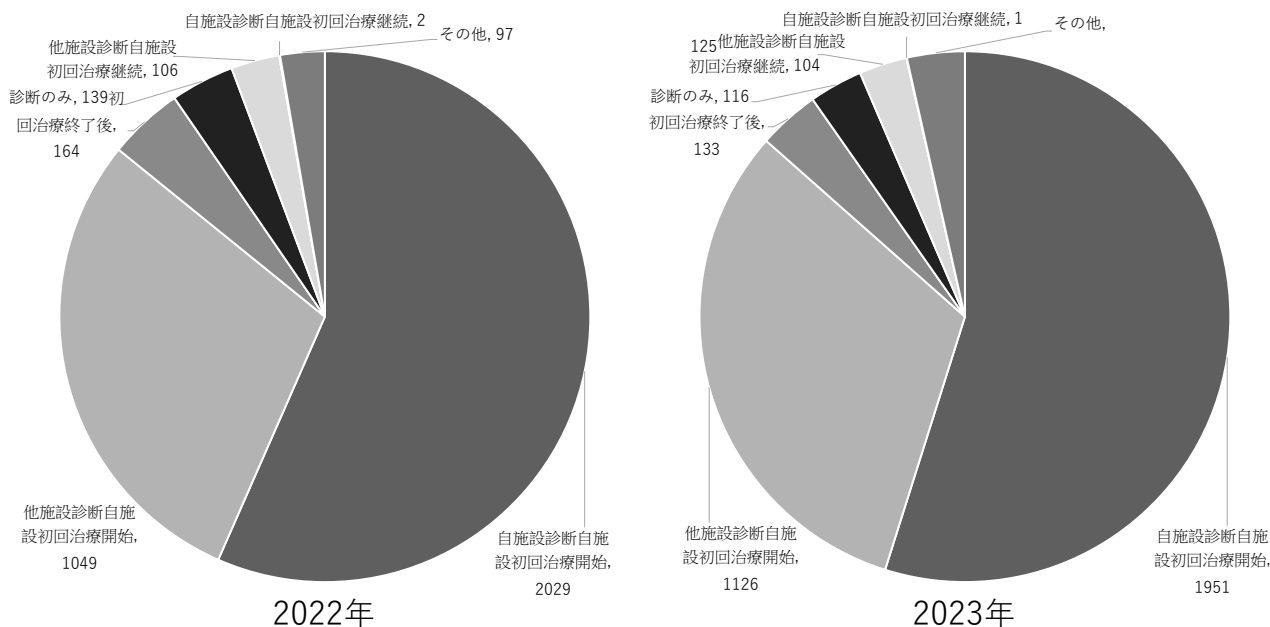


図2 院内がん登録 症例区分

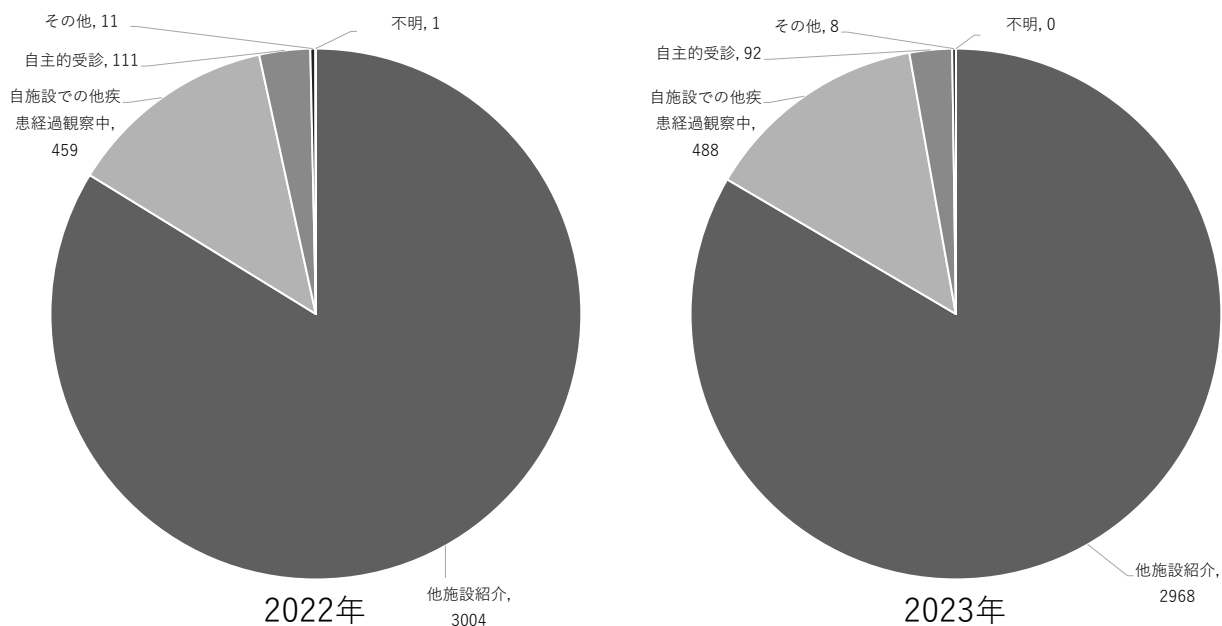


図3 院内がん登録 来院経路

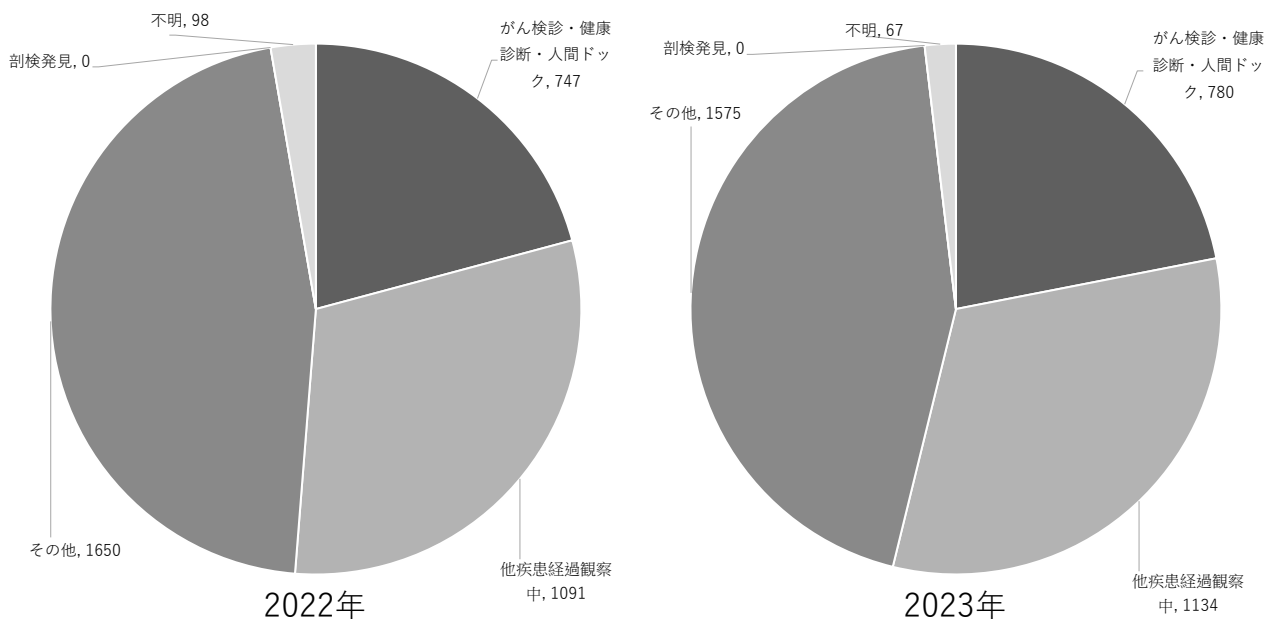


図4 院内がん登録 発見経緯